

研究会の視点

- 研究主題にある「学習課題(=夢)を明確にした単元構想」になっているか。また、その夢を子どもたちは自覚していたか。
- 「本時の学びどころ」が明確に設定された授業であったか。子どもが本気で話し合いを深めていく過程で、本時目標にせまることができるしかけを設定することができていたのか。
- 本校の研究の方向性が学習指導案に表現されているか、またその内容は妥当であるか。

6年1組(鈴木組) 「とべまち健康! ニュースポーツ」

【担任の意図】

活動目的の意味や価値を捉え、そこに向けて拡散的に出し合った必要な取り組みを、その意図ごとに整理できるよう、まず、活動目的を黒板中央に示し、その良さや意図をその下に整理し、確かなものにする。その後、クラゲチャートで、その目的の達成に必要な事項をつなげ、その下にそのための具体的な取り組みを位置付ける形で構造化する。

【授業の様子】

区役所からの返答をもとに、子どもたちは活動の価値を捉え直すことができていた。活動の見通しを立てる場面では、内容のまとまりをつくるのか、順序立てるのか、何をすべきかはっきりしない部分があった。



講師の先生から

- 読解力・表現力の質の高さを感じる授業だった。学ぶ姿勢と学び方が身についてきている。
- 「内容を決めること」「順序を決めること」のどちらも難しい。子どもたちは、「まず~をする。」と考えていたので、今日は「何をやるか」決めていくこともできたのでは。
- めあてと見通しをしっかりとらせる→学びどころ→まとめ(今日何ができたか確認)とふりかえり(この時間が自分にとってどうだったか)をしっかりとる。この流れが大切。戸部のうりは、学びどころ!
- 学びどころを、参会者がわかるような指導案を。その場で担任が判断するなら、その事実がわかるように。
- 教科との関連は、子どもの必要感で結びつく。
- 子どもたちのやさしさがにじみ出ている夢。「ご高齢の方」と自然に言葉を選んでいる、穏やかな話し合いができていた。